

令和8年度 果樹カメムシ類によるヒノキ球果の口針鞘数調査 単位:本／果

調査地域	調査地点	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	9月下旬
熊本地域	熊本市(河内)	2.1					
宇城地域	宇城市(松橋)	1.4					
	宇城市(三角)	2.6					
菊池地域	合志市(栄)	1.7					
天草地域	天草市(上島)	2.6					
	天草市(下島)	2.1					
平均値		2.1					
前年値		-	2.1	3.0	11.3	17.4	24.4
平年値(過去10年)		1.4	4.5	8.1	11.5	18.0	22.8

※数値はヒノキ球果1果当たりの平均口針鞘数。(各地点30果調査)
※数値が25を超えると、成虫はヒノキ球果から離脱し、樹園地等に飛来するとされる。
※平均値は、6地点の平均の値。

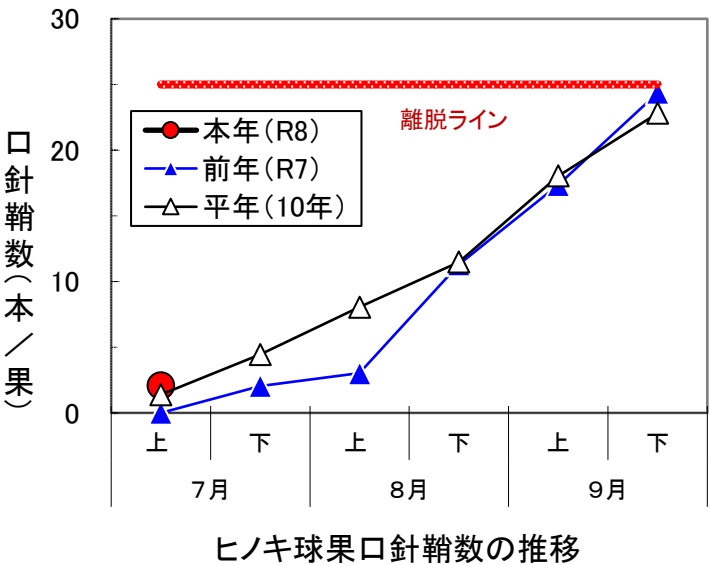
<参考> 単位:本／果

過去の実績(口針鞘数)	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	9月下旬
2026年(R8)	2.1					
2025年(R7)	-	2.1	3.0	11.3	17.4	24.4
2024年(R6)	3.7	4.1	10.6	16.4	17.0	16.6
2023年(R5)	0.2	2.3	4.1	7.5	17.2	21.4
2022年(R4)	2.5	8.1	14.9	21.7	19.3	19.8
2021年(R3)	0.1	3.8	6.4	7.6	22.6	16.6
2020年(R2)	1.9	1.0	1.9	3.2	3.4	-
2019年(R1)	1.1	2.8	5.5	15.3	30.2	37.0
2018年(H30)	2.5	19.0	25.5	-	-	-
2017年(H29)	0.1	0.4	2.2	7.3	16.8	21.4
2016年(H28)	0.4	1.0	6.4	13.0	18.4	25.3
平年値(過去10年)	1.4	4.5	8.1	11.5	18.0	22.8

7月下旬に予想した各地点の離脱予想日
(福岡県の予測式を適用)

地域	日数(Y)	予想離脱日	調査日
熊本		—	
宇城(松橋)		—	
宇城(三角)		—	
合志		—	
天草(上島)		—	
天草(下島)		—	

※予測式による計算値がマイナスになった場合は0とした。
計算式: $Y = 54.17 - 3.776X + 0.01937X^2$
Y: 調査日から離脱日までの日数、X: ヒノキ球果の口針鞘数



令和8年度 ヒノキ球果枝のピーティング調査による寄生虫数 単位:頭／5枝

調査地域	調査地点	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	9月下旬
熊本地域	熊本市(河内)	2					
宇城地域	宇城市(松橋)	13					
	宇城市(三角)	3					
菊池地域	合志市(栄)	5					
天草地域	天草市(上島)	4					
	天草市(下島)	8					
平均値		5.8					
前年値		3.8	2.8	4.2	15.7	16.8	16.5
平年値(過去10年)		3.0	4.5	4.0	4.8	5.3	7.6

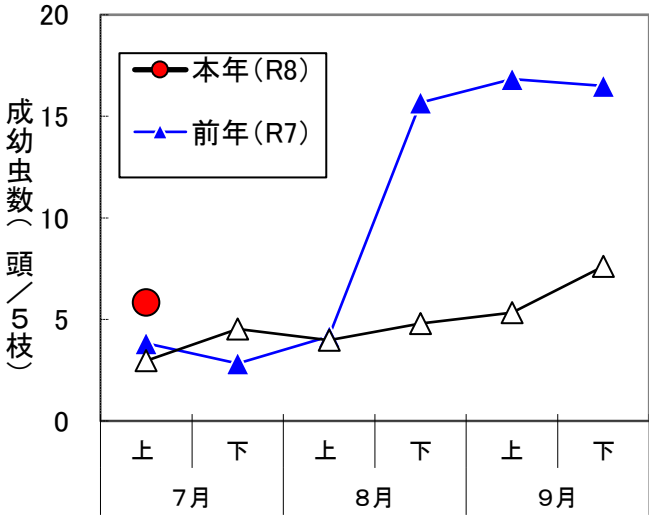
※数値はヒノキ球果に寄生する果樹カメムシ類の成虫数及び幼虫数の5枝合計
※果樹カメムシ類の内訳は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ及びクサギカメムシ

＜参考＞ 単位:頭／5枝

調査年次	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	9月下旬
2026年(R8)	5.83					
2025年(R7)	3.83	2.83	4.17	15.67	16.83	16.50
2024年(R6)	3.00	3.50	5.00	1.00	1.50	1.50
2023年(R5)	1.00	2.75	3.50	4.00	9.00	20.50
2022年(R4)	3.30	6.50	4.30	3.50	2.80	5.50
2021年(R3)	1.00	6.50	4.30	8.00	5.75	5.30
2020年(R2)	0.25	1.50	3.00	0.50	0.25	—
2019年(R1)	1.50	3.00	8.50	9.25	12.50	—
2018年(H30)	15.00	18.00	5.00	2.50	1.50	—
2017年(H29)	0.50	0.50	1.00	2.25	2.75	4.00
2016年(H28)	0.25	0.25	1.00	1.25	0.50	0.00
平年値(過去10年)	2.96	4.53	3.98	4.79	5.34	7.61

※ヒノキ球果に網をかぶせ、たたき落としたカメムシ類の成幼虫数。(1地点当たり5枝合計の平均)
※調査地点は熊本市1、宇城市2、合志市1、天草市2の6地点。

＜解説＞
果樹カメムシ類は山林のスギやヒノキの球果をエサとして増殖する。ヒノキの球果は口針鞘数が25本を超えるとエサとして不適となり、次のエサを求めて球果から離れることが知られている。球果に寄生する成幼虫数が多いと、球果を吸い尽くす時期が早まる恐れがあり、同時に山林に生息する密度が高まっていることを示す。調査地点がある地域でも、地域内の生息密度に偏りが大きい、寄生虫数が多いところでは、台風等の影響により、突発的に果樹園への飛来が起こる恐れがあるので、初期飛来を見逃さないよう注意する必要がある。



ヒノキ球果に寄生するカメムシ類の推移
調査地点：熊本市、宇城市松橋町、宇城市三角町、合志市
天草市有明、天草市本渡
成幼虫数は1地点5枝合計の6地点平均
平年値は過去10年の平均、但し、9月下旬のみ過去7年の平均